

講義Ⅲ-①

共通評価項目の見直しについて (児童養護施設、児童自立支援施設、 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】)

評価者フォローアップ研修(共通コース)

令和3年4月開催

東京都福祉サービス評価推進機構

この講義では、令和2年度に共通評価項目の見直しを行ったサービスのうち、児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホームについて説明します。

講義内容

- 1 見直しの概要について
- 2 児童養護施設の項目見直しについて
- 3 児童自立支援施設の項目見直しについて
- 4 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】の項目見直しについて

講義内容は、主に4点あります。

1点目は、見直しの概要について。

ここでは、見直しの範囲や背景、観点等を説明します。

続いて2点目は、児童養護施設の項目見直しについて。

3点目は、児童自立支援施設の項目見直しについて。

4点目は、自立援助ホームの項目見直しについてです。

1 見直しの概要について

それでは、令和2年度 共通評価項目の見直しの概要について説明します。

(1) 令和2年度 共通評価項目の見直しの範囲

- ・児童養護施設※
- ・乳児院
- ・児童自立支援施設
- ・児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】
- ・母子生活支援施設

※児童養護施設については、令和元年度に見直しを行った所だが、他4サービスの見直しに伴い、一部文言を変更

令和2年度は、児童養護施設、乳児院、児童自立支援施設、自立援助ホーム、母子生活支援施設について見直しを行いました。

児童養護施設は、令和元年度に見直しましたが、他の社会的養護関係施設4サービスの見直しに伴い、一部文言を変更しました。

(2) 見直しの背景（理由）

○（国等の動向）

- ・平成28年6月 改正児童福祉法施行
- ・平成29年8月「新しい社会的養育ビジョン」公表
- ・平成30年3月「第三者評価基準」改定(全国社会福祉協議会)

○（東京都の動向）

- ・平成27年4月「東京都社会的養護施策推進計画」
- ・令和2年3月「東京都社会的養育推進計画」

○（東京都第三者評価）

社会的養護関係施設の共通評価項目については、平成23年度～平成25年度に見直し及び策定を行い、一定期間が経過

項目を見直すこととした経緯ですが、平成28年に児童福祉法の改正があったことが発端となります。

この改正では、日本が1994年に批准した「児童の権利に関する条約」の精神にのっとり児童が保障されること、全て国民は児童の最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めることなどが掲げられました。

その後、平成29年8月に新たな社会的養育の在り方に関する検討会にて、改正法の理念に基づいて施策が実施されるよう「新しい社会的養育ビジョン」が掲げられ、平成30年3月に国の社会的養護関係施設の第三者評価基準の改定が行われました。

東京都の動向としては、平成27年4月に東京都の社会的養護施策に関する計画「東京都社会的養護施策推進計画」が策定され、これをもとに各種施策が行われていたところでしたが、令和2年3月に「東京都社会的養育推進計画」が策定されました。

東京都の第三者評価の動向としては、平成23年から平成25年に社会的養護関係施設の共通評価項目の見直しや策定を行ってから、その後見直しが行われていませんでした。

これを受け、早期に見直しを行う必要があるとして、令和元年度に児童養護施設の項目見直しを行い、令和2年度においては、乳児院、児童自立支援施設、自立援助ホーム、母子生活支援施設の共通評価項目の見直しを行うこととしました。

先ほどの説明の通りですが、児童養護施設については他の4サービスの見直しに伴い、今回一部文言を変更しました。

(3) 見直しの進捗

令和2年度			令和3年度
児童小ワーキング(8月、9月)	→	児童ワーキング(10月)	→
		評価・研究委員会(12月)	改定項目により 評価開始

令和2年度の見直しの進捗ですが、機構に設置している評価・研究委員会、またその下に設置する児童小ワーキング、児童ワーキングにて、審議・検討を行いました。

委員会やワーキングは、社会的養護関係施設の職員、評価者、学識経験者などによって構成され、見直しについて審議を行いました。

(4) 見直しの観点

①	平成28年改正 児童福祉法の内容との整合
②	平成29年8月国策定「新しい社会的養育ビジョン」及び令和2年10月国策定「社会的養育の推進に向けて」との内容との整合
③	平成30年3月全国社会福祉協議会改定 国の「第三者評価基準」との整合
④	令和2年3月東京都策定「東京都社会的養育推進計画」との整合
⑤	令和元年度東京都改定「児童養護施設共通評価項目」との整合
⑥	令和2年度評価・研究委員会、児童(小)ワーキング委員意見の反映

続いて、今回の共通評価項目の見直しの観点ですが、主に6点あります。

1つ目は、平成28年に改正した児童福祉法の内容との整合です。「児童の権利に関する条約」の精神にのっとり児童が保障され、全て国民は児童の最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めることなどが掲げられたため、項目にも反映しました。

2つ目は、改正した児童福祉法の理念に基づいて施策が実施されるよう平成29年8月に国が策定した「新しい社会的養育ビジョン」及び、令和2年10月に国が策定した「社会的養育の推進に向けて」の内容との整合を図りました。

3つ目は、国の第三者評価基準が平成30年3月に改定されましたので、その内容と整合を図りました。

4つ目は、令和2年3月に東京都で「東京都社会的養育推進計画」が策定されましたので、その内容と整合を図りました。

続いて5つ目は、東京都で児童養護施設の共通評価項目の見直しを、令和元年度におこなったので、今回見直した他の4サービスに共通する箇所については、その内容と整合を図りました。

そして、最後の6つ目は、これまで検討を行ってきた児童小ワーキング、児童ワーキング、評価・研究委員会の委員意見を反映しました。

2 児童養護施設の項目見直しについて

それでは、児童養護施設の項目見直しについて、説明します。

① サービス提供のプロセス項目

6-1-1	子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
6-2-1	サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている
6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
6-3-1	定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している
6-3-2	子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している
6-3-3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
6-5-1	子どものプライバシー保護を徹底している
6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

まず、カテゴリー6の4サービスの実施項目を除いた、サービス提供のプロセス項目の変更について説明します。

オレンジ色で塗りつぶされている評価項目が今回変更を行った項目ですが、児童養護施設については、令和元年度に見直しを行ったところなので、変更内容としては他の4サービスの文言と整合を図ったものになります。

詳しくは次のスライド以降で説明します。

6-2-1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている

6-2-1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている

1	サービスの開始にあたり、施設の基本的ルール、権利擁護の取り組みをはじめとした重要な事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、子どもや保護者の理解を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している



1	サービスの開始にあたり、施設の基本的ルール(約束ごと)、権利擁護の取り組みをはじめとした重要な事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、子どもや保護者の理解を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している

評価項目「サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている」ですが、標準項目1については、基本的ルールという文言の後ろにカッコ書きで「約束ごと」と追記しました。

これは検討を行った児童小ワーキングにて、「社会的養護の現場では利用者に対してルールという表現をあまり使わないため、項目上でも反映したい」という議論があり、反映を行ったものです。評価項目及び他の標準項目については令和元年度から変更はありません。

6-3-3 利用者に関する記録を適切に作成する体制を確立している



6-3-3 **子ども**に関する記録を適切に作成する体制を確立している

1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目「利用者に関する記録を適切に作成する体制を確立している」については、他の4サービスと合わせて、主語を「利用者」から「子ども」と明確にしました。

標準項目については令和元年度から変更はありません。

② サービスの実施項目

6-4-1	個別の自立支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている
6-4-2	家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている
6-4-3	子どもが楽しく安心して食事ができるようにしている
6-4-4	子どもの健康を維持するための支援を行っている
6-4-5	子どもの精神面でのケアについてさまざまな取り組みを行っている
6-4-6	子どもの主体性を尊重し、施設での生活が楽しく快適になるよう支援を行っている
6-4-7	子ども一人ひとりに応じた学力向上・進路決定のための取り組みを行っている
6-4-8	地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている

続いてはカテゴリー 6 の 4 にあたる、サービスの実施項目について説明します。

オレンジ色の評価項目について今回変更をおこないましたが、児童養護施設については令和元年度に見直したところであるため、サービス提供のプロセス項目と同じく、変更内容は他の 4 サービスの文言と整合を図ったものになります。

詳しくは次のスライドで説明します。

6-4-4 子どもの健康を維持するための支援を行っている

1	入所もない子どもの健康状態(口腔ケア、視力等)に配慮し、健康維持のための支援を行っている
2	健康に関して、子どもに理解を促す取り組みを行うとともに、子どもからの相談に応じ、必要に応じて子どもや保護者等に説明をしている
3	子どもの服薬管理は誤りがないようチェック体制の強化などのしくみを整えている
4	医療機関と連携を行いながら、日頃の健康管理を行い、子どもの体調に変化があったときには、速やかに対応できる体制を整えている

6-4-4 子どもの健康を維持するための支援を行っている

1	入所もない子どもの健康状態(口腔ケア、視力等)に配慮し、健康維持のための支援を行っている
2	健康に関して、子どもに理解を促す取り組みを行うとともに、子どもからの相談に応じ、必要に応じて子どもや保護者等に説明をしている
3	子どもの服薬管理は誤りがないようチェック体制の強化などのしくみを整えている
4	医療機関と連携しながら、日頃の健康管理を行い、子どもの体調に変化があったときには、速やかに対応できる体制を整えている

評価項目「子どもの健康を維持するための支援を行っている」についてです。

標準項目4について、他の4サービスと統一する形で「連携を行いながら」から「連携しながら」と文言を変更しました。

児童養護施設における変更は以上です。

3 児童自立支援施設の 項目見直しについて

続いて、児童自立支援施設の項目見直しについて説明します。

① サービス提供のプロセス項目

6-1-1	子どもや保護者等に対してサービスの情報を提供している
6-2-1	サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている
6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
6-3-1	定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している
6-3-2	子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している
6-3-3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
6-5-1	子どものプライバシー保護を徹底している
6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している
6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

まず、カテゴリー6の4サービスの実施項目を除いた、サービス提供のプロセス項目の変更についてです。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。

6-2-1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得ている

6-2-1 サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている

1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、子どもや保護者の理解を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している

1	サービスの開始にあたり、施設の基本的ルール(約束ごと)、権利擁護の取り組みをはじめとした重要な事項等を子どもや保護者の状況に応じて説明している
2	サービス内容について、子どもや保護者の理解を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、子どもや保護者の意向を確認し、記録化している

まず、評価項目「サービスの開始にあたり子どもや保護者に説明し、理解を得るようにしている」については、サービスの開始にあたり、保護者から理解を得ることが困難な場合を考慮し、「理解を得るようにしている」としました。

子どもや保護者から理解を得られるような説明の工夫等を確認できるよう文言を変更しております。

標準項目1については、基本的ルールという文言の後ろにカッコ書きで「約束ごと」と追記しました。

児童養護施設でも説明のとおり、児童小ワーキングにおける議論を受け、反映を行ったものです。

また、児童養護施設の見直しに倣い、標準項目1の、「重要な事項等」の前に「権利擁護の取り組みをはじめとした」と追記しました。

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

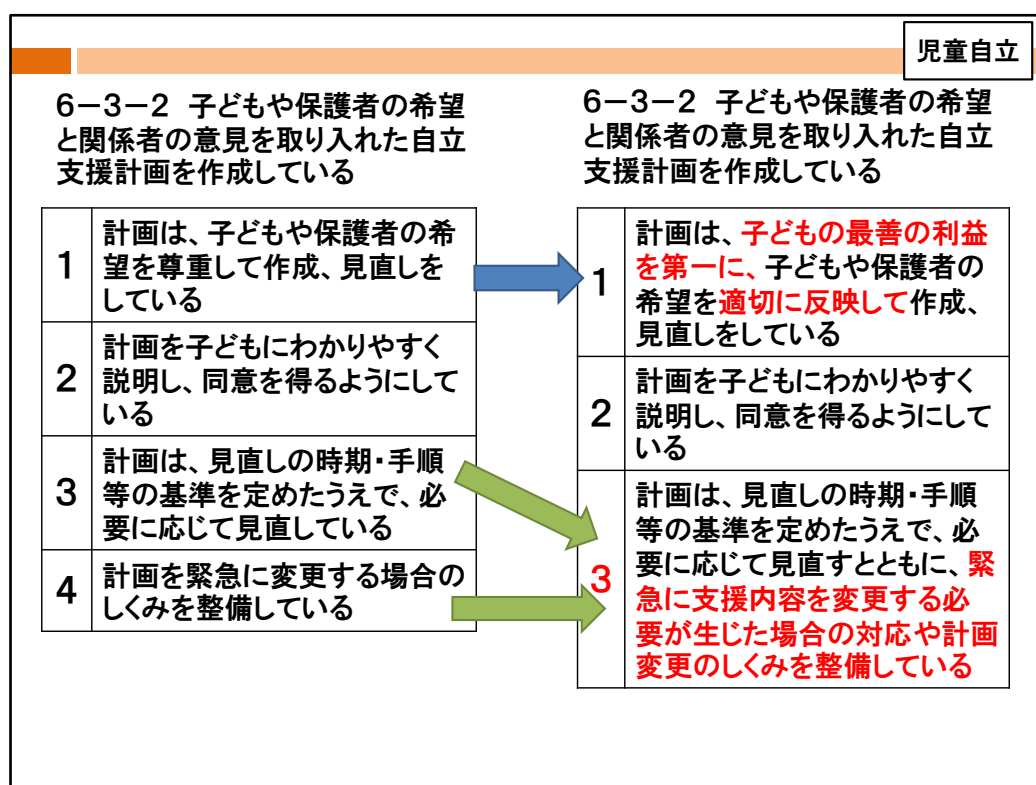
1	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	入所以前の生活習慣等をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、退所後の支援の継続性にも配慮している

続いて、評価項目「サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている」についてです。

標準項目3について、児童養護施設に倣い、「入所以前の生活習慣等」と文言を変更しました。

標準項目4については、児童養護施設に倣い「退所後の」と明記することで、サービス終了時に、退所後の支援の継続に向けた取り組みがあるか確認できるようにしました。

なお、退所後に実施する支援についてはカテゴリー6の4「サービスの実施項目」において行うものとし、この評価項目では終了時の手続きについて評価します。



評価項目「子どもや保護者の希望と関係者の意見を取り入れた自立支援計画を作成している」について、標準項目1は児童養護施設に倣い、「計画は、子どもの最善の利益を第一に、子どもや保護者の希望を適切に反映して作成、見直しをしている」と変更しました。

これは、平成28年に改正した児童福祉法で「全て国民は児童の最善の利益が優先して考慮され、心身ともに健やかに育成されるよう努めること」と掲げられたことを受け、見直しを行ったものです。

児童の最善の利益については、児童の希望を叶えることのみを指すものではなく、生活習慣の改善を図る等の事情によっては、子どもの希望を反映しないことや、保護者の希望を反映することが児童の最善の利益につながることも考えられます。

そのため、「適切に反映」という文言としております。

標準項目3については、見直し前の標準項目3と標準項目4を1つの項目に統合しました。

これにより、見直しの時期や手順等の基準を定めて必要に応じて見直しているか、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合、計画変更のしくみが整備されているかが、1つの項目で確認できるようになりました。

6-3-3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している



6-3-3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目「子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している」については、次の評価項目6の3の4で子どもの情報を職員間で共有化しているかを確認するにあたり、情報の記載の仕方が統一されていて共有がしやすいかなど、適切に記録を作成する体制を確立しているかが評価出来るよう変更しました。

		児童自立	
6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している		6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している	
2	子ども一人ひとりの価値観や生活習慣をふまえた支援を行っている	新設	1 「子どもの権利ノート」などにより、子どもの基本的な権利について、日常生活の中でわかりやすく説明している
3	施設内の子ども間の暴力、いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止策を徹底している		2 子どもが意見を表明しやすい環境をつくるなど、子どもの権利が守られるように取り組んでいる
4	子どもの安全の確保等のため、行動に一定の制限を行う必要がある場合は、組織的・計画的に実施し、定期的に検証を行っている		3 子ども一人ひとりの価値観や生活習慣に配慮した支援を行っている
			4 施設内の子ども間の暴力、いじめ等が行われないよう組織的に予防・再発防止策を徹底している
			5 子どもの安全の確保等のため、行動に一定の制限を行う必要がある場合は、最善の利益になる場合にのみ適切に実施し、職員間で定期的に検証・検討を行っている

評価項目「サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している」ですが、標準項目2については、児童福祉法とされている「児童の権利に関する条約」にて、「児童が自由に自己の意見を表明する権利」など各権利の尊重が掲げられていることを受け、子どもが意見を表明しやすい環境をつくるなどの権利擁護に向けた取り組みがあるか確認できるよう項目を新設しました。

標準項目3については、「ふまえた」から「配慮した」という文言に変更を行いました。

また、標準項目2の新設により、順序が2番目から3番目になりました。

標準項目4については順序のみの変更で、3番目から4番目になりました。

標準項目5については、子どもの安全確保等を目的とした行動制限について、児童福祉法の趣旨を踏まえ、「最善の利益になる場合にのみ適切に実施し」「職員間で定期的に検証・検討を行っている」と変更しました。

また、順序については、4番目から5番目になりました。評価項目及び標準項目1については、変更はありません。

② サービスの実施項目

6-4-1	個別の自立支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている
6-4-2	子どもの自立に向けて、さまざまな日常生活上の支援を行っている
6-4-3	子ども一人ひとりに応じた学力向上・進路決定のための取り組みを行っている
6-4-4	子どもが楽しく安心して食事ができるようにしている
6-4-5	子どもの健康を維持するための支援を行っている
6-4-6	子どもの精神面でのケアについてさまざまな取り組みを行っている
6-4-7	子どもの 主体性 を尊重し、施設での生活が快適になるよう支援を行っている
6-4-8	家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている

続いてはカテゴリー 6 の 4 にあたる、サービスの実施項目について説明します。

全項目について、今回変更がありました。

		児童自立	
6-4-1 個別の自立支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている		6-4-1 個別の自立支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている	
1	個別の自立支援計画に基づいて支援を行っている	1	個別の自立支援計画に基づいて支援を行っている
2	子どもの自己肯定感をはぐくみ、職員との信頼関係を築くために、子ども一人ひとりに合った方法で、受容的・支持的な関わりをしている	2	子どもの自己肯定感をはぐくみ、職員との信頼関係を築くために、子ども一人ひとりに合った方法で、受容的・支持的な関わりをしている
3	子ども一人ひとりの自立に向けて、関係機関と連携をとって、支援を行っている	3	退所後の安定した生活基盤の確保に向け、関係機関と連携をとって、リービングケア（退所後の生活を見越した支援）を行っている
4	子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援を行っている	4	子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援を関係機関と連携して行っている

まず、評価項目「個別の自立支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている」の、標準項目3については、「リービングケア（退所後の生活を見越した支援）」を、「関係機関と連携をとって行っているか」が確認できるよう、児童養護施設に倣い変更しました。

なお、児童小ワーキングにおいて「乳児院と母子生活支援施設を除き、現場ではリービングケアが退所後の生活を見越した支援である事は浸透しているように思われる」との議論があったことから、児童自立支援施設においてはリービングケアの後にカッコ書きで「退所後の生活を見越した支援」と記載しています。

標準項目4についても児童養護施設に倣い、「子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援」を、「関係機関と連携して行っている」かが確認できるよう文言を変更しました。

6-4-2 子どもの自立に向けて、
さまざまな日常生活上の支援を行
っている

2	基本的な生活習慣及び生活知識・技術(家事、社会生活上のルール等)を身につけられるよう支援を行っている
---	--



6-4-2 子どもの自立に向けて、
さまざまな日常生活上の支援を行っている

1	子どものコミュニケーション力(人間関係構築力)が向上するよう支援を行っている
2	基本的な生活習慣を確立するとともに、 社会常識、社会規範 及び生活知識・技術(家事、社会生活上のルール等)を身につけられるよう支援を行っている
3	行事やスポーツ・文化活動を通じて、子どもの心身を育成し、達成感、協調性、責任感、忍耐力等を養えるよう支援を行っている
4	子どもの状況に応じて、経済観念を身につけられるよう、金銭の管理や使い方について支援を行っている
5	子どもが地域と交流できる機会を大切にしている

続いて、評価項目「子どもの自立に向けて、さまざまな日常生活上の支援を行っている」についてです。

標準項目2については、国の第三者評価基準解説書に「子どもにとって今後の生活の規範となる各種のルールや態度等について学ぶ機会が確保されていることが大切」と掲げられていることと、児童養護施設の共通評価項目に倣い、基本的な生活習慣の確立や生活知識・技術の取得と併せて、自立に向けて社会常識・社会規範についても身につけられるような支援をおこなっているか評価できるよう、文言を変更しました。

評価項目及び他の標準項目については、変更ありません。

6-4-3 子ども一人ひとりに応じた学力向上・進路決定のための取り組みを行っている

1	基礎学力の向上・学習習慣獲得のために、学校と連携をとって、支援を行っている
2	社会性や職業観を身につけられるよう、作業活動、職場見学等の支援を行っている
3	進路は、子どもの意向や適性に応じて選択・決定できるよう支援を行っている
4	個別に必要な時期に、自立に向けての社会体験を行っている

6-4-3 子ども一人ひとりに応じた学力向上・進路決定のための取り組みを行っている

1	学習環境を整備し、基礎学力の向上・学習習慣獲得のために、学校と連携をとって、支援を行っている
2	社会性や職業観を身につけられるよう、作業活動、職場見学等の支援を行っている
3	多様な選択肢を提示したうえで、子どもの最善の利益にかなった進路の自己決定ができるよう支援している
4	個別に必要な時期に、自立に向けての 社会経験を積めるよう支援している

続いて、評価項目「子ども一人ひとりに応じた学力向上・進路決定のための取り組みを行っている」についてです。

標準項目1について、児童養護施設に倣い、学習環境の整備についても評価できるよう変更しました。

当該項目においては、オンライン学習に対応できるよう設備等を整えている場合についても評価します。

標準項目3についても児童養護施設に倣い、進学・就労等の多様な選択肢を子どもに提示し、子どもが最善の利益にかなった進路を自ら決定出来るように行う施設の支援について、評価が出来るよう変更しました。

標準項目4についても、児童養護施設に倣い「社会経験」と文言を変更しました。

6-4-4 子どもが楽しく安心して食事ができるようにしている

1	食事の献立は、子どもの状況や嗜好に応じて工夫している
2	食物アレルギーや疾患等については、医師の指示に従い、対応している
3	楽しい食事となるような環境を整えている
4	食についての関心を深めるための取り組みを行っている

6-4-4 子どもが楽しく安心して食事ができるようにしている

1	楽しい食事となるような環境を整えている
2	食事の献立は、子どもの状況（食物アレルギーや疾患等に関する主治医等の指示を含む）や嗜好に応じて工夫している
3	食習慣の確立や食についての関心向上のため、関係職員と連携して食育の推進に取り組んでいる

続いて、評価項目「子どもが楽しく安心して食事ができるようにしている」についてです。

標準項目1については、見直し前に3番目にあったものを1番目に移動しました。

標準項目2については、見直し前の標準項目1と標準項目2を1つの項目に統合しました。

標準項目3については、見直し前は4番目の標準項目でしたが、前の項目を統合したことにより、順序を3番目に変更しました。

また児童養護施設に倣い「食習慣の確立や食についての関心向上のため、関係職員と連携して食育の推進に取り組んでいる」と具体的に記載しました。

なお、「関係職員」は職員配置がある栄養士及び調理員を主に指しています。

		児童自立	
6-4-5 子どもの健康を維持するための支援を行っている		6-4-5 子どもの健康を維持するための支援を行っている	
1	入所もない子どもの健康状態(口腔ケア、視力等)に配慮し、健康維持のための支援を行っている	1	入所もない子どもの健康状態(口腔ケア、視力等)に配慮し、健康維持のための支援を行っている
2	日頃から医療機関と連携を図り、健康管理に活かしている	2	健康に関して、子どもに理解を促す取り組みを行うとともに、子どもからの相談に応じ、必要に応じて子どもや保護者等に説明をしている
3	子どもの服薬管理は誤りがないうようなチェック体制の強化などのしつこさを整えている	3	子どもの服薬管理は誤りがないうようなチェック体制の強化などのしつこさを整えている
4	子どもの体調に変化があったときには、速やかに対応できる体制を整えている	4	医療機関と連携しながら、日頃の健康管理を行い、子どもの体調に変化があったときには、速やかに対応できる体制を整えている
5	健康について子どもに理解を促す取り組みを行っている		

続いて、評価項目「子どもの健康を維持するための支援を行っている」ですが、標準項目2について、見直し前に5番目にあったものを2番目に移動しました。

また、児童養護施設に倣い、健康に関して理解を促す取り組みとともに、子どもからの相談に応じ、必要に応じて子どもや保護者等に説明をしているか確認出来るよう変更しました。

標準項目4については、見直し前の標準項目2と、標準項目4を統合しました。

6-4-6 子どもの精神面でのケアについて
さまざまな取り組みを行っている

6-4-6 子どもの精神面でのケアについてさまざまな取り組みを行っている

2 子どもの抱える問題に応じて、心理的ケアが必要な場合は、関係職員・機関と連携をとって、支援を行っている



1	子どもが悩みや不安を相談できるように工夫している
2	子どもの課題に応じて、心理的ケアが必要な場合は、関係職員・機関と連携をとって、支援を行っている
3	性についての正しい知識と理解が得られるよう、子どもの状況に応じた説明を行っている
4	子どもが自分の課題に向き合えるよう、個別の状況に応じた支援を行っている
5	施設での生活における子どもの行動上の問題について、関係のある子どもも含めて対応している

評価項目「子どもの精神面でのケアについてさまざまな取り組みを行っている」ですが、標準項目2については、東京都社会的養育推進計画において、「課題」と記載されているため、それに倣い「課題」としました。

評価項目及び他の標準項目については、変更ありません。

		児童自立	
6-4-7 子どもの自主性を尊重し、施設での生活が快適になるよう支援を行っている		6-4-7 子どもの 主体性 を尊重し、施設での生活が快適になるよう支援を行っている	
1	居室や共用スペース等は、子どもの状況に応じて、安心して落ちついて過ごせるよう、安全性や快適性に配慮したものとなっている	1	居室等施設全体が、子どもにとって安心、安全で快適な居場所となるよう、子どもの年齢や状況に応じて配慮したものとなっている
2	日常生活の過ごし方は、子どもの状況・年齢等に応じて工夫している	2	日常生活や余暇の過ごし方は、子どもが主体的に考え、営むことができるよう支援している
3	行事やイベントの準備は子どもも参加して行っている	3	行事やイベントの企画、運営等に子どもも関わっている
4	日常生活において、子どもが自主性を発揮できるよう支援を行っている	4	日常生活において、子どもが自主性を発揮できるよう支援を行っている
		新設	5 子どもが季節等に合った清潔な衣服を身に付けられるよう支援している

続いて、評価項目「子どもの**主体性**を尊重し、施設での生活が快適になるよう支援を行っている」についてです。

令和元年度の児童養護施設の見直しにて、児童福祉法で子どもが権利の主体とされていることを踏まえ「主体性」と文言変更を図ったことに倣い、児童自立支援施設においても「主体性」と文言を変更しました。

標準項目1については、国の第三者評価基準項目の「居室等施設全体が、子どもの居場所となるように」という記載と、児童養護施設の「子どもの年齢や状況に応じて」という記載を取り入れた上で、児童ワーキングにおいて文言を整理しました。

標準項目2については、国の第三者評価基準項目にて、子どもが自らの生活を主体的に考え、営むことができるように支援しているかを確認するにあたり、余暇活動が評価の着眼点として掲げられていたため、それに倣う形で変更しました。

標準項目3については、児童小ワーキングにおいて「行事やイベントの企画や運営に子どもが関わることが多い」という話が挙がったため、行事やイベントの企画・運営への子どもの参画について評価出来るよう変更しました。

標準項目5については、国の第三者評価基準項目にて衣服に関する支援を評価する項目があることから、東京都においても項目を新設しました。

なお、評価項目の趣旨に倣い、最終的に子どもが自ら季節等に合った清潔な衣服を選択出来るようになることを目標とした支援について評価します。

6-4-8 家族等との関係
構築に向けた取り組みを行っている

6-4-8 家族等との関係構築
に向けた取り組みを行っている

1	子どもや保護者等の状況、意向・希望を把握し、家庭関係の調整を行っている	新設	1	家庭支援専門相談員を中心に、家族等との関係構築のための支援方針が明確にされ施設全体で共有されている
2	保護者等との面会、外出、外泊等は、状況を把握したうえで、子どもの安全に注意しながら行っている		2	保護者等との面会、外出、外泊等は、状況を把握したうえで、子どもの安全に注意しながら行っている
3	家族との再統合に向け、子どもや保護者等の意向をふまえて、児童相談所等と連携をとって、支援を行っている		3	子どもの最善の利益を第一に子どもや保護者等の意向を確認しながら、関係機関と連携をとって、子どもと家族の関係調整に取り組んでいる
4	入所中の子どもの家族等に対し、退所後の生活を想定したさまざまな支援を行っている	新設	4	養育家庭や養子縁組等の制度が有効に活用されるよう児童相談所と連携をとっている
			5	入所中の子どもの家族等に対し、退所後の生活を想定したさまざまな支援を行っている

評価項目「家族等との関係構築に向けた取り組みを行っている」ですが、標準項目1について、児童自立支援施設に家庭支援専門相談員の職員配置があることから、児童養護施設に倣い項目を新設しました。

標準項目3については、見直し前の標準項目1と標準項目3を統合しました。

改正した児童福祉法の趣旨を踏まえ「子どもの最善の利益を第一に」と追記し、見直し前の標準項目3にあった「家族との再統合」を結果の一つとした「子どもと家族の関係調整の取り組み」を広く評価できるようにしました。

標準項目4については、東京都社会的養育推進計画の理念に「子供が家庭において健やかに養育されることを原則とした上で、家庭における養育が困難な場合は、家庭と同様の環境における養育を優先し、里親等への委託を推進する」と掲げられていることから、養育家庭や養子縁組等の制度が有効に活用されるよう、児童相談所との連携について確認できるよう項目を新設しました。文言については、児童養護施設の見直しと合わせる形で変更しました。

標準項目5については、見直し前は4番目の標準項目でしたが、標準項目4の新設によって、順序を4番目から5番目に変更したものです。

児童自立支援施設における変更については、以上となります。

4 児童自立生活援助事業【自立援助ホーム】の項目見直しについて

続いては、自立援助ホームの項目見直しについてです。

① サービス提供のプロセス項目

6-1-1	利用を希望する子どもに対してサービスの情報を提供している
6-2-1	サービスの開始にあたり子どもに説明し、理解を得ている
6-2-2	サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている
6-3-1	定められた手順に従ってアセスメントを行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している
6-3-2	子どもの希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している
6-3-3	子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している
6-3-4	子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している
6-5-1	子どものプライバシー保護を徹底している
6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している
6-6-1	手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている
6-6-2	サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

まずカテゴリー 6 の 4 サービスの実施項目を除いた、サービス提供のプロセス項目の変更について説明します。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。

6-2-1 サービスの開始にあたり子どもに説明し、理解を得ている

1	サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要な事項等を子どもの状況に応じて説明している
2	サービス内容について、子どもの理解を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、子どもの意向を確認し、記録化している



6-2-1 サービスの開始にあたり子どもに説明し、理解を得ている

1	サービスの開始にあたり、 施設の基本的ルール(約束ごと)、権利擁護の取り組みをはじめ とした重要な事項等を子どもの状況に応じて説明している
2	サービス内容について、子どもの理解を得るようにしている
3	サービスに関する説明の際に、子どもの意向を確認し、記録化している

まず、評価項目「サービスの開始にあたり子どもに説明し、理解を得ている」についてです。

標準項目1については、基本的ルールという文言の後ろにカッコ書きで「約束ごと」と追記しました。

児童養護施設でも説明のとおり、児童小ワーキングにおける議論を受けて反映したものです。

また、児童養護施設の見直しに倣い、重要な事項等の前に「権利擁護の取り組みをはじめとした」と追記しました。

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	サービス利用前の生活をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、子どもの不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている

6-2-2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

1	サービス開始時に、子どもの支援に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している
2	利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている
3	入所以前の生活習慣等をふまえた支援を行っている
4	サービスの終了時には、子どもの不安を軽減し、退所後の支援の継続性にも配慮している

続いて、評価項目「サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている」ですが、標準項目3について、児童養護施設に倣い、「入所以前の生活習慣等」と変更しました。

標準項目4については、児童養護施設に倣い「退所後の」と明記することで、サービス終了時に、退所後の支援の継続に向けた取り組みがあるか確認できるようにしました。

なお、退所後に実施する支援については、カテゴリー6の4サービスの実施項目において行うものとし、この評価項目では終了時の手続きについて評価します。

6-3-2 子どもの希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

1	計画は、子どもの希望を尊重して作成、見直しをしている
2	計画を子どもにわかりやすく説明し、同意を得るようにしている
3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直ししている
4	計画を緊急に変更する場合のしくみを整備している

6-3-2 子どもの希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している

1	計画は、 子どもの最善の利益を第一に、子どもの希望を適切に反映 して作成、見直しをしている
2	計画を子どもにわかりやすく説明し、同意を得るようにしている
3	計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、 必要に応じて見直すとともに、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合の対応や計画変更のしくみを整備 している

続いて、評価項目「子どもの希望と関係者の意見を取り入れた個別の支援計画を作成している」についてです。

標準項目1は、児童自立支援施設における変更と同様に、改正した児童福祉法の内容を反映したものです。

また、児童自立支援施設でも説明した所ですが、児童の最善の利益については、児童の希望を叶えることのみを指すものではなく、生活習慣の改善を図る等の事情によっては、子どもの希望を反映しないことが児童の最善の利益につながることも考えられます。

標準項目3については、見直し前の標準項目3と標準項目4を1つの項目に統合しました。

これにより、見直しの時期や手順等の基準を定めて必要に応じて計画を見直ししているか、緊急に支援内容を変更する必要が生じた場合、計画変更のしくみが整備されているかが、1つの項目で確認できるようになりました。

6-3-3 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している



6-3-3 子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している

1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

1	子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
2	計画に沿った具体的な支援内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

続いて、評価項目「子どもに関する記録を適切に作成する体制を確立している」についてです。

こちらは、次の評価項目6の3の4で子どもの情報を職員間で共有化しているかを確認するにあたり、情報の記載の仕方が統一されていて共有がしやすいかなど、適切に記録を作成する体制を確立しているかが評価出来るよう変更しました。

6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

1	子どもの基本的人権について、日常生活の中でわかりやすく説明している
2	日常の支援にあたっては、個人の意思を尊重している(子どもが「ノー」と言える機会を設けている)
3	ホーム内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう、組織的に予防・再発防止を徹底している

6-5-2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している

1	子どもの基本的人権について、日常生活の中でわかりやすく説明している
2	子どもが意見を表明しやすい環境をつくるなど、子どもの権利が守られるように取り組んでいる
3	ホーム内の子ども間の暴力・いじめ等が行われることのないよう、組織的に予防・再発防止を徹底している



評価項目「サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、個人の意思を尊重している」ですが、標準項目2については、児童自立支援施設の変更と同様に、改正した児童福祉法の内容とされている「児童の権利に関する条約」の趣旨にのっとり、子どもが意見を表明しやすい環境をつくるなどの権利擁護に向けた取り組みがあるか確認できるようにしました。

② サービスの実施項目

6-4-1	個別の支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている
6-4-2	子どもの自立に向けて、継続して就労を行うことができるよう支援を行っている
6-4-3	子どもの自立に向けて、さまざまな日常生活上の支援を行っている
6-4-4	子どもの 主体性 を尊重し、ホームでの生活が快適になるよう支援を行っている
6-4-5	子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている
6-4-6	食事が子どもの安心や健康につながるよう支援を行っている
6-4-7	本人の意向を尊重しながら、家族との関わり方における支援を行っている

続いてはカテゴリー 6 の 4 にあたる、サービスの実施項目について説明します。

オレンジ色の項目について、今回変更がありました。

6-4-1 個別の支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている

1	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
2	子どもと信頼関係を構築できるよう、子ども一人ひとりに合った方法で接している
3	子ども一人ひとりの自立に向けて、関係機関(児童相談所、児童福祉施設、就労先等)と連携をとって、支援を行っている
4	子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援を行っている

6-4-1 個別の支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている

1	個別の支援計画に基づいて支援を行っている
2	子どもと信頼関係を構築できるよう、子ども一人ひとりに合った方法で接している
3	退所後の安定した生活基盤の確保に向け、関係機関や関係職員と連携をとって、リービングケア(退所後の生活を見越した支援)を行っている
4	子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援を関係機関や関係職員と連携して行っている

まず、評価項目「個別の支援計画に基づいて、自立した生活が営めるよう支援を行っている」についてです。

標準項目3については児童自立支援施設の変更と同様に、「リービングケア(退所後の生活を見越した支援)」を、「関係機関や関係職員と連携をとって行っているか」が確認できるよう、児童養護施設に倣い変更しました。

標準項目4についても児童養護施設に倣い、「子ども一人ひとりの状況や意向に応じた退所後の支援」を、「関係機関や関係職員と連携して行っている」かが確認できるよう変更しました。

なお、標準項目3及び標準項目4の「関係職員」は東京都において職員配置があるジョブ・トレーナーを主に指しています。

		自立援助	
		6-4-3 子どもの自立に向けて、さまざまな日常生活上の支援を行っている	
		1	子どものコミュニケーション力(人間関係構築力)が向上するよう支援を行っている
		2	基本的な生活習慣(起床時間、食事のマナー等)及び生活知識・技術(家事、社会生活上のルール等)を身につけられるよう支援を行っている
		3	収入の範囲内で生活できる経済観念が身につくよう、日常生活を通じて、金銭の管理や使い方について、支援を行っている
6-4-3 子どもの自立に向けて、さまざまな日常生活上の支援を行っている		4	資格取得・進学に向けた学習への支援など、子どもの目標達成のための支援を行っている
4		5	子どもに、地域と日常的に関わりながら生活しているということの大切さを伝えている
		6	子どもの生活の幅が広がるよう、地域にどのような資源(地域の行事、公共のサービス等)があるのかを伝えている

評価項目「子どもの自立に向けて、さまざまな日常生活上の支援を行っている」ですが、標準項目4については、児童養護施設に倣い学習環境の整備についても評価できるよう変更しました。

当該項目においては、オンライン学習に対応できるよう設備等を整えている場合についても評価します。

評価項目及び他の標準項目については、変更ありません。

6-4-4 子どもの自主性を尊重し、ホームでの生活が快適になるよう支援を行っている

6-4-4 子どもの**主体性**を尊重し、ホームでの生活が快適になるよう支援を行っている

1	子どもの自主性を尊重し、意見を聞く機会を設けている
2	居室や共有スペースは、快適で落ち着ける環境となるよう工夫している
3	行事やイベントを通じて、子どもが生活の幅を広げることができるよう支援を行っている

1	子どもの 主体性 を尊重し、意見を聞く機会を設けている
2	居室や共有スペースは、快適で落ち着ける環境となるよう工夫している
3	行事やイベントを通じて、子どもが生活の幅を広げることができるよう支援を行っている
新設 4	TPO等に応じたふさわしい服装となるよう社会人としてのマナーや身だしなみについて助言している

評価項目「子どもの主体性を尊重し、ホームでの生活が快適になるよう支援を行っている」ですが、児童自立支援施設で同様の変更を説明したとおり、令和元年度に児童養護施設にて「主体性」と文言変更を図ったことから、自立援助ホームもそれに倣う形で「主体性」と文言を変更しました。

標準項目1については、評価項目と同じく、改正した児童福祉法の趣旨をふまえ「主体性」としたものです。

標準項目4については、国の第三者評価基準項目にて衣服に関する支援を評価する項目があることから、東京都においても項目の新設を行いました。

なお、評価項目の趣旨に倣い、最終的に子どもが自らTPO等に応じたふさわしい服装を選択出来るようになることを目標とした助言について評価します。

6-4-5 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている

6-4-5 子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている

3	子どもの抱える問題に応じて、心理的ケアが必要な場合は、関係機関と連携をとって、支援を行っている	1	子どもの心身の健康状態に注意するとともに、心の悩みや不安の相談に応じている
		2	子どもが健康を自己管理できるように支援を行っている
		3	子どもの課題に応じて、心理的ケアが必要な場合は、関係機関と連携をとって、支援を行っている
		4	子どもの急な体調変化時に、医療機関等と速やかに連絡がとれる体制を整えている
		5	性についての正しい知識と理解が得られるよう、子どもの状況に応じた説明を行っている

続いて、評価項目「子どもが心身の健康を維持できるよう支援を行っている」ですが、標準項目3については、東京都社会的養育推進計画にて、「課題」と記載されていることに倣い「課題」としました。

評価項目及び他の標準項目については、変更ありません。

6-4-6 食事が子どもの安心や健康につながるよう支援を行っている

1	食事時間は楽しく、安心感を得られるひとときになるよう工夫している
2	食についての関心を深めるための取り組みを行っている
3	食事時間は子どもの希望や生活状況に応じて対応している



6-4-6 食事が子どもの安心や健康につながるよう支援を行っている

1	食事時間は楽しく、安心感を得られるひとときになるよう工夫している
2	食習慣の確立や食についての関心向上のため、食育の推進に取り組んでいる
3	食事時間は子どもの希望や生活状況に応じて対応している

最後に、評価項目「食事が子どもの安心や健康につながるよう支援を行っている」についてです。

標準項目2については、児童養護施設に倣い「食習慣の確立や食についての関心向上のため、食育の推進に取り組んでいる」と具体的に記載しました。

自立援助ホームにおける変更については、以上となります。



児童養護施設、児童自立支援施設、自立援助ホームの共通評価項目の見直しに関する説明は以上となります。

講義Ⅲの①と講義Ⅲの②の間には、確認テストはありませんので、講義Ⅲの②に進んでください。